



新年おめでとうございます。

保護者の皆様、そして地域の皆様方には、新年をいかがお迎えになったことでしょうか。職員一同、新鮮な気持ちで「すべては子供たちのため」職務に邁進する決意です。昨年同様、本年もどうぞよろしく願いいたします。

お正月は、子供たちに伝えたい日本の伝統行事の一つです。正月とは本来、その年の豊穡(ほうじょう)を司る歳神様(としがみさま)をお迎えする行事であり、1月の別名です。現在は、1月1日から3日までを三が日、1月7日までを松の内、あるいは松七日と呼び、この期間を「正月」と言っています。地方によっては1月20日までを正月とする(二十日正月・骨正月)こともあります。

正月は家に歳神様をお迎えし、祝う行事です。歳神様とは1年の初めにやってきて、その年の作物が豊かに実るように、また、家族みんなが元気で暮らせる約束をしてくれる神様です。正月に門松やしめ飾り、鏡餅を飾ったりするのは、すべて歳神様を心から歓迎するための準備です。

私たちの祖先は「全てのモノには命がありなんらかの意味がある」という「アニミズム」を信仰しており、作物の生命(いなだま)と人間の生命(たま)は1つのものであると考えていました。そのため、人間が死ぬとその魂はこの世とは別の世界に行き、ある一定の期間が過ぎると個人の区別が無くなり「祖霊」という大きな集団、いわゆる「ご先祖様」になると信じられていました。この祖霊が春になると「田の神」に、秋が終わると山へ帰って「山の神」に、そして正月には「歳神」になって子孫の繁栄を見守ってくれているのだと言います。

1年の始めである正月は春の始まり、すなわち「立春」とも考えられており、人々は春の訪れがもたらす生命の誕生を心から喜びました。「めでたい(芽出度い)」という言葉は「新しい春を迎え芽が出る」という意味があります。また新年に言う「明けましておめでとうございます」という言葉は、実は年が明け歳神様を迎える際の祝福の言葉でした。つまり、神様への感謝の言葉を人々の間で交わすことにより、心から歳神様を迎えたことを喜びあったということです。

このような感謝と祈りの気持ちから生まれたお正月。そこには1年に1回、わが家にやってきてくださる年神様をうやまう、日本の世界に誇る文化「おもてなしの心」がたくさんつまっています。

政府の産業競争力会議や教育再生実行会議、経団連では、「世界で活躍できる人づくり」のために「グローバル人材の育成」が議論されています。2013年にとりまとめられた「グローバル人材の育成について意識調査」結果、8割以上が「外国語によるコミュニケーション能力」と共に「日本文化・歴史に関する教育や情報の充実」が必要と回答しています。「真のグローバル化とは、徹底的に日本の原風景を理解すること」等の指摘も多々あります。子供たちが活躍する2050年。グローバル化の進展する社会の中で、子供たちが将来の幸せ(豊かな社会的な自己実現)のためには、社会の中で活躍し輝く人生を歩んでいくためには、日本の文化や歴史を心の原風景として大切に、誇りとするのがますます重要になると考えております。お正月をはじめ、さまざまな機会を捉えて、日本文化や歴史について、子供たちに語り継ぎ、理解を深め、故郷を愛し誇りに思う心を育てていきたいものです。心の原風景は、子供たちがグローバル社会の中で、光り輝くためのエネルギーの源泉です。

砂場をつくっていただきました！第2グラウンドも整備していただきました！

神吉雄吾様・恵子様(東松島市地域おこし協力隊)、熱海PTA会長様 ありがとうございました！

去る年末から年始にかけて、熱海PTA会長様と東松島市地域おこし協力隊隊員の神吉雄吾様・恵子様(神吉様は、震災直後より埼玉からかけつけ復興に尽力いただいております)のご尽力により、念願の砂場が完成しました。走り幅跳びや立ち幅跳びの練習も思う存分できるようになりました。未来を担う子供たちに求められる「創造性」を育む「砂遊び」も思う存分できるようになりました。

また、旧未来中のテニスコートの重い支柱も重機を使って撤去していただきました。ミニサッカーコート2面、ドッチボールコート2面、キャッチボール練習場を整備する予定です。思いっきり走り回る、活動する子供たちのキラキラした笑顔が楽しみです。心より感謝と御礼を申し上げます。



